

ずいそう

チヌ釣りの魅力

高畑勝義



釣りには色々なジャンルや対象魚があるが、この中から「チヌ釣りの魅力」について紹介する。黒鯛のことを一般的にチヌといい、大きなものは50cmを超える。50cmを超えるチヌは、年齢が定かではないことから歳なしと呼ばれ釣り師を魅了している。

釣り方も様々でここでは磯からのフカセ釣りを紹介する。磯から撒き餌さを撒いて小さなウキで仕掛けを潮に流して釣る。撒き餌さの投入点、仕掛けや流し方など状況の変わる潮を読みながらヒットポイントを探っていく。時期によっては簡単に釣れる場合もあるが、警戒心の強い魚でなかなか思うように釣れてくれない。自分のイメージ通りに喰わせて連続で釣れたりすると、してやったりで楽しい瞬間だ。



写真一 釣りの様子

食材としてのチヌは、臭みがあって美味しくないと思われている方が多いが、沖磯で釣れるチヌは臭みもなく、刺身や塩焼きで美味しく頂くことが出来る。釣りたての新鮮な魚を食べることが出来るのも釣り人の特権である。特に美味しいのは、冬の時期で寒チヌと呼ばれる。身が締まってとても美味しいが、釣るのが最も難しい時期である。

広島県と愛媛県を結ぶしまなみ海道周辺の芸予諸島

などは、島が点在しており潮流が速く複雑に流れる。こういったエリアのチヌは、特に身が締まって脂がのっており家族からも喜ばれる。

最近では、このようなチヌの美味しさを広めようと、広島県竹原市周辺の釣り師や料理人、日本酒の蔵元が集まり、「瀬戸内の恵みプロジェクト」という活動が行われている。イタリアンのコースにチヌ料理を加えたり、チヌ料理に合う日本酒を開発して販売するなど盛り上がりを見せている。



写真二 藤井酒造から発売された日本酒「ちぬ賛舞 純米吟醸」

チヌのフカセ釣りは、競技性の高い釣りであることも魅力の一つである。現在はコロナ禍で中止されているが、例年釣りメーカ主催の地区予選が、全国各地で



写真三 第3回ダイワ銀狼カップ2018全国決勝大会 左が筆者で準優勝

開催される。地区予選の上位に入賞すれば、ブロック予選を経て全国大会に進むことが出来る。特に中国エリアは激戦区で、全国的にもレベルの高いエリアである。筆者も過去4回全国大会に出場した経験がある。

全国大会では、リーグ戦とトーナメント戦形式で競われ、2時間程度の時間で1対1で対戦していく。短時間で釣果を出さなくてはならず、独特の緊張感がたまらない。特に最後の優勝決定戦となれば、プレスや

他の選手が観戦するなかでの対戦となりなお更である。頂点を目指して若い人から年配の人まで幅広い年代に人気がある。来年には新型コロナウイルスが収束して、また熱い戦いが繰り上げられることを期待している。

—こうはた かつよし 豊国工業(株) 新商品開発室 部長—

